

| | |
|-----------|-------------|
| 2016年度 後期 | リフレクションペーパー |
|-----------|-------------|

| | | | | | | | |
|---------------------|--|--------------|-----------|------|------|-----|------|
| 学科名 | 建築・デザイン学科 | | | | | | |
| 科目名 | 空間とデザイン | | | | | | |
| 科目区分 | 教養教育 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 1年次 | | |
| 必修・選択の別 | 選択科目 | | | | | | |
| 担当者 | 小池 博 | | | | | | |
| 授業の到達目標 (シラバスから) | <ul style="list-style-type: none"> ・身体や自然界の寸法や尺度について理解する。 ・空間をデザインする上でのリソースとソリューションの関係を理解する。 ・デザインと空間認識の関係を理解する。 | | | | | | |
| 日程と内容 | 第1回： 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法 第2回： 寸法と尺度 第3回： 自然界の形と複雑系 第4回： アフォーダンスとテクスチャー 第5回： 記号論とゲシュタルト心理学 第6回： 色彩とデザイン 第7回： 外部空間の構成とシーケンスのデザイン 第8回： 街路景観とデザインコード 第9回： 古典建築と様式 第10回： 近代建築三大巨匠のデザイン 第11回： 明日の都市：近世の都市デザイン 第12回： 近現代の建築の潮流 第13回： アートと空間デザイン 1：未来派／デ・スティール／キュービズム 第14回： アートと空間デザイン 2：アートによる意味の解体と再構築 第15回： まとめ 期末試験 | | | | | | |
| 成績評価基準 | 定期試験 | 50% | 実技 | | | | |
| | 臨時試験 | | 部外評価 | | | | |
| | 報告書・レポート | | プレゼンテーション | | | | |
| | 課題 | | | | | | |
| | 演習 | 50% | 計 | 100% | | | |
| 授業到達目標の達成度 | 履修登録者151名のうち、147名が定期試験を受け、全員合格した。本講義は目標でも掲げているように、デザインをする上で必要とされる基礎的知識の理解を求めるもので、知識の習得を目指したものではない。そのため、授業を普通に受け、それに伴い、自主的に調査・学習すれば合格できる。全学科を対象として授業であるが、建築・デザイン学科の学生だけでなく、そのほかの学科の学生の出席率も高く、授業の内容に興味を持ってもらった。また、すべての授業の終了時にその日の授業の内容に関連した演習課題を行わせたが、授業の内容の理解度は極 | | | | | | |
| 反省点 | いろいろなテーマで授業を行いたかったため、すべての授業で独立したテーマで講義を行った。そのため、授業によっては時間が長くなってしまい、演習課題に5分程度しか時間をさけなかった授業もあった。 | | | | | | |
| 来年度の計画 | すべての授業のおわりに演習課題を行うスタイルは続けていきたい。そのために、今年度長くなった授業に関しては、内容を見直す。 | | | | | | |
| 授業評価アンケートに対するコメント | 概ね良い評価をもらったが、大きく分けて2種類、ネガティブな意見があった。 1. 解説に専門用語が入ると理解が難しい。 これは建デ以外の学生と思われる。RCなど建築だと当たり前に使っている言葉でも、それ以外の学生には理解ができない場合がある。気を付けていきたい。 2. 配布プリントが見にくい デザインの講義でもあるので、すべてA3、1枚裏表で収まるようにレイアウトした。それで見にくくなっているが、教科書ではなく、興味を持ったテーマは自分で調べてほしいので、このままで少し様子を見たい。 | | | | | | |
| 履修登録者数 | 151名 | 定期試験 受験者数 | 147名 | 合格者数 | 147名 | 合格率 | 100% |